

●三位一体後第四主日

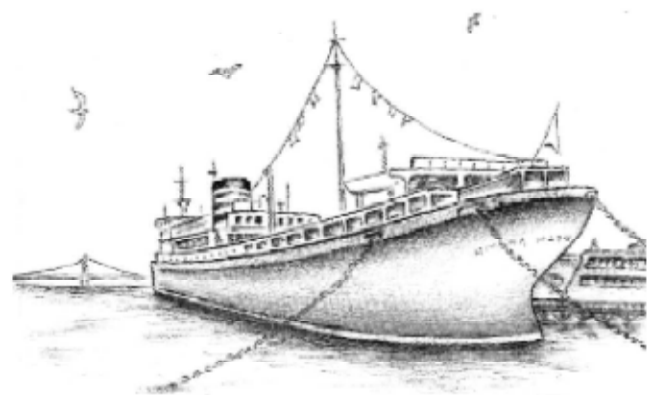
泉のほとり

今日の詩篇「第一二編」

主よ、あなたはその仰せを守り

この代からとこしえに至るまで

わたしたちを見守ってくださいます。



弟子になるために

キリストは「天に上げられる時」が近づいたのでエルサレムに向かいました。一行が道を進んで行く時、「あなたが行く所は、どこへでもついて行きます」と言う人がいました。その人にキリストは「狐には穴があり、空の鳥にも巣がある。だが、人の子には枕するところもない」と答えられました。

狐には穴が、空の鳥にも巣がある。だが、人の子には枕するところもない。厳密に言いますと、「枕するところを持っていない」と言う言葉です。この世は人の子が枕する所ではありません。日に見えているこの世がすべてであるかのように、いつまでも生きるかのようにこの世に巣を作る心で生きていながら、キリストに「どこにでもついて行きます」と言っている人には「人の子はこの地上では枕する所を持っていない」と言われるのです。

キリストはある人たちには「わたしについてきなさい」と言われました。ところが彼らは「父の葬儀が終わってからついていきます」、「家族との別れの時間をください」と言っていたのです。キリストは彼らの都合をお許しになりませんが、それを振り向く者は神の国にふさわしくないと言われたのです。このキリストの言葉もこの世の生活がいつまでも続くかのように、この世に自分の腹をくつつけて、この地上の家族のこと、夢、仕事など、この世のあらゆるものにこだわり、未練をおいて、後ろを振り向く人の心を「神の国にふさわしくない」と言われたことです。

神さまは預言者イザヤを通して「すべての人は

草である。人の栄光は野の花のようである」と言われました。人の美しさはいつまでも続くものではありません。必ず枯れる時がきます。神さまの息吹ですべてが枯れてしまうのです。そして人の栄光は野の花のようにしぼんでしまうのです。イエスさまは栄華を極めたソロモンでさえこの花一本ほどにも若飾っていないと言われました。この地上でどんなに輝いた人だとしても、その栄光は花一本にも及ばないといふのです。すべてが過ぎ去って、消えてなくなるものです。人に対する真実を受け入れて認めることがなければ、見えない世界があります。天の国が見えないのです。神のことが見えません。

人には皆、それぞれ定められた時があります。そして一人一人死ぬ時を神はお定めになりました。死を定められたのは神さまでです。どうして神さまは人の「死」、「終わり」を定められたのでしょうか。人はこの世をいつまでも生きるかのように生きていますが、必ず持っているもの、求めているもの、この世で価値を置いていたもの、自分がこだわって手でぎゅつと握っているものもすべて手放さなければならぬ時が来ます。

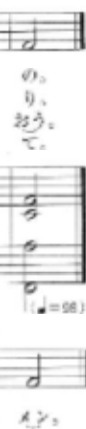
この世のものを愛し、この地上のものに、私たちの腹をべつたりとくつつけていては、キリストが与えようとしている、私たちが本当に求めるべき「第一」に価値あるものは見えてきません。私たちの腹をこの世にくつつけて、この世にふさわしい者であってはなりません。この世にはなく「神の国にふさわしい者」でなくてはなりません。

「狐には穴が、空の鳥には巣がある、人の子には枕するところを持っていない」と言われたキリストの心にしたがって生きていきたいと思えます。

祈り

○天にいますわたし共の父なる御神。あなたに養われて、このひと月を生きることができました。今、御前にあつて、「あなたはわが牧者」と心からほめたたえることができ、感謝いたします。しかし、今その恵みを思い起こすとき、それに相応しい歩みであつたかと思ひ、深く反省せざるを得ないわたし共であります。

人に喜ばれるよりも神に喜ばれることがわたし共の定めであつたのに、この定めを背くこと幾たびであつたかと思ひます。あなたの御心を尋ねるのがわたし共の常道であるのに、その道を踏み外して自らの心を第一とし、また、人びとの心を恐れることが第一であつたことを今、御前に思い起こさざるを得ません。思ひ煩うことなく、その一日の労苦に生きればよいと主の言葉がわたし共の胸に刻まれているのにそれを忘れてしまい、思ひ煩いの虜となり、心や肉体まで病んでしまふ悩みの中になりました。その愚かさを恥じざるを得ない者であります。今、どうぞわたし共の頭なな心を打ち砕いてくださいますように。あなたの恵みをもっと必要としている人びとのあることを思わざるを得ません。家に残して参りました家族たち、心にかかりながら、あなたのもとに導くことのできない友人た



ち、その一人ひとりをあなたの御前に差し出して祈り願いたく思ひます。あなたの恵みを最も必要としている者たちを顧みてくださいますように。病床にある友を励ましてください。年老いて、ここに来る力を失っている者に慰めを与えてください。それぞれの家にある悩みを顧みてください。病んでいる者を取り続ける人を、年老いた者をいたわり続ける人の労苦をあなたが慰めてください。世界が揺れ動いています。富んでいる国も、貧しい国も、みなが平和に乏しいものを分かち合ひながらこの世を作つていく知恵を身につけることができなのです。そのような中であつて、真実の愛を証ししなければならぬ教会も無力であります。教会の中にも争ひがあります。互いのことを裁く思いが強くなり、赦し合う思いが乏しいのです。教会を憐れみ、また、この世界をも憐れんでくださいますように。わたし共の教会をどうぞ祝福してください。ここに、何よりも礼拝を喜びとする教会を形作らせてください。年老いた者も、年若き者も、疑いを抱いている者も、信仰の喜びにあります者も、そのすべての違いを超えて、互いのためにとりなし合ひながら、良き礼拝をささげることができますように。あなたの栄光をほめたたえる喜びと、平和を築しむ思いとを与えてください。主イエス・キリストの御名によつて、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

今日のお知らせ

○今日は諸聖徒記念礼拝です。すでに天に帰られた諸聖徒を記念し、わたしたちも天に帰る望みを与えられていることを感謝して礼拝をします。

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスと、園舎二階のリズム室では、「ぶどうの会」が開かれます。どうぞご参加ください。

○第二礼拝後、ホールで、讃美と報告に続いて、諸聖徒を記念する会をします。浅野和子姉の信仰の話を浅野浩一兄がされます。

○引き続き愛餐会をします。奉仕部の方々が準備して下さった昼食を一階にいただきます。会費四百円でどなたでも参加できます。

○明日は東京説教塾の例会がホールで行われます。

○今週一三日(火)～一三日(木)に、幼稚園年長組の軽井沢キャンプがあります。吉村牧師と齋岡牧師、事務所の上山兄と井手直行兄も参加します。

○今週一四日(金)～一五(土)に、聖歌隊の合宿が奥多摩バイブルシャレーで行われます。

○再来週三〇日(日)一四礼拝後に行われる教会研修会に参加予定の方は、今日中に申し込みをお願いします。

第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番

讃21 393番

説教 「復活の確かさはどこに」

聖書 ルカ20章27～40節 (新約P150)

司式 森 洋之兄

説教者 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「あめなる喜び」J.カステルナ

○ 讃美歌 21 205番

1. 今日が光が 造られた日よ
闇の中にも 「光かがやけ」

2. 今日が聖なる 安息の日よ
疲れた心 新たにされる

3. 今日が平和が 満ちあふれる日
あらい騒ぐ 波もしずまる

4. 今日がみ神に 共に祈る日
心を高く み前に上げよう

5. 今日が主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ

○ ヴィオラによる讃美

「ヴォカリーズ」C.777ニ17

○ 讃美歌 21 393番 (3面に楽譜があります)

1. ところを一つに 平和を求め
主を愛する愛 明るく燃やそう
主はぶどうの幹、われらその枝
主はわれらのもの、われら主のもの

2. 恵みの子たちよ、交わり深め
愛とまこととを 互いに誓おう
われらのきずなが 弱まる時も
強めてください、主の愛により

3. 主はわれらのため 苦しみを受け
その友のために 命を捨てた
われらも互いに まことの愛を
兄弟姉妹と 共に分け合おう

4. 分かたれた民が 一つにされる
その日が来るのを われらは望もう
主の光を受け その輝きを
世界に示そう、主の弟子として

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 79番 488番

詩編 第12篇 (旧約P843)

説教 「復活の確かさはどこに」

聖書 ルカ20章27～40節 (新約P150)

司式 森 洋之兄

説教者 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「永遠の教会の出現」O.377

○ 讃美歌 79番

○ ヴィオラによる讃美

「ヴォカリーズ」C.777ニ17

○ 聖歌隊による讃美

「主にありてぞ」 讃美歌 361番

主にありてぞ われは生くる

われ主に主われに ありてやすし

主にありてぞ われ死なばや

主にある死こそは いのちなれば

生くるうれし 死ぬるもよし

主にあるわが身の さちはひとし

われ主に主は われにありて

天こそとこよの わが家となれ アーメン

○ 讃美歌 488番

聖餐曲「祈り」J.ラブレ

後奏曲「いざやともに」S.カーク・エート

聖餐曲「アレグレット」H.477

後奏曲「いざやともに」S.カーク・エート

※礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。